

そらのとり

岩見沢聖十字幼稚園だよりNo. 11

2022年1月31日発行



1月の聖句

※コロナや大雪で2月4日になってしまいました。ごめんねさ。

『新しい歌を主に向かって歌え』(詩編96:11)



ある女子修道会で毎朝のミサで歌われている聖歌があります。
「主の恵みは 朝毎に新しい 主のまことはそれほど深い」。
この歌詞を繰り返し歌うシンプルな聖歌です。

その歌詞の背後には旧約聖書の『哀歌3:22~23』の「み言葉」があります。
バビロンによって滅ぼされ、亡国の民となった神の民イェラエルはバビロン捕囚を経験しました。
そのような苦難から、にもかかわらず「主の恵みは朝毎に新しい」と歌ったのでした。
どんな時でも、どんな場でも、神さまの恵みを新しく受けとる、困難な中においても。
そのような感性を保ちつづけることの尊さを教えられます。毎日が新しい主の恵みのうちに歩みだせるなら…。

(チャプレン 司祭 いけだとおる)

雪山をのぼれ!! 元気に雪中運動会

1月21日(金)
雪中運動会を三部に分けて行いました。
みかんを探し宝探し、山の上の旗を、走って行って競争などでした。短い時間でしたが楽しめました。

あー! ドキドキする!
足の速い人と、いっしょにおそくおそくかま...
またか! とれたらどうしよう!
みかん、ちやん、みつかるかなあ、ドキドキ

始まる前に、ドキドキする気持ちを、そっと教えてくれたお友だちもいました。
私達大人にしたら「ささやかな行事」でも、子どもたちにとっては、心ゆさぶられる大事なひとつひとつの行事なんですね。
そんな感じやすく、期待と不安をいっぱい持ったことものに...。大切にしたいですね。



雪の中を走る
みんなの姿は、とつてもたのしく、「おどろきスピード」でびゅーりしました。
山によい登ったり、かけ上がったたり、パワフルでしたよ!

あれ? オレンジいろのものみえるかな?!

ちっちゃいの宝探しも、かわいらしかったです。

1月27日(木) - 斉メールでほほく早.. お迎えをお休...(2から、3日間の完全休園と3日間の預かり保育...)

コロナの波が聖十字にも

もう保健所は介入してくれないため、市との連絡を、感染の可能性がある人をリストアップしますが、毎日の連絡を、まめにしているおかげです。



この日のバスの座席表では...
夜に陽性の連絡が入ってもすぐ対応できるように、担任の先生たちが手分けして、的確に準備を進めてくれました。そして結果の電話の有無で、その中、支援の先生や宮西先生は園庭も雪を安全に整備してくれました。今のところ、家庭内感染があったけど、そのおかげで発熱した人や感染の可能性がある人も全員が陰性だったので、園内感染はゼロでした。外で思いやり遊ぶときはマスクをはずしていたのに、本当にこの結果には感謝がありません。

暑い日も寒い日も、毎日外で元気なうらやまに、大きき口をあげて大笑いしてるみんな。特にマスクがむくむく、小さいクラスのおんなは、必ず毎日外に出てきて遊びます。

くっついて、ころげて、昭和の子どもみたいに、単衣いっこして大笑いです。みんなの「陽気な心」と「つよい体」が、免疫力を高めているのしょうか? だとしたら嬉しいですね。でもまだまだ気がめげません。

空知の感染が早くおさまって、2月、3月の行事が無事できますように...

献金をお捧げしました。

子ども達が4月から12月までの毎週の礼拝と、クリスマスに献金して下さった大切なお金は、なんと94,581円にもなりました! 本当にありがとうございました! それで今年も、聖十字とゆかりのある方で、困難に直面する子どもたちのために働いて下さっているところにお送りしました。まずは、ネパールで子どもの医療のために働いて下さっている、前園医で美流渡の診療所にいらしゃった榎戸健次郎先生の「NPO さんご海外保健協会」。榎戸先生は数年前、園にもいらしゃり、子どもたちにネパールのお話をして下さいました。そして、もと園長の雨宮先生のお子さんで聖十字のお隣の牧師館で少女時代を過ごされた雨宮春子さんは、アフリカで助産師として母子の健康を守っています。その活動を支援する「グレースの会」に。それから、同じ聖公会で網走ペテロ教会の司祭、飯野先生の奥様が代表の「ファミリーホームのあ」。親と離れて暮らす小さなお子さんたちを育てています。今年はこの3か所に等分して、みなさんの献金をお捧げし、とても喜んで下さいました。子どもたちのために、何かの足しになればと思います。ありがとうございました。